

アジアを包みこむ新しい貿易協定の行方

TPP や RCEP など、昨今のアジア周辺における自由貿易協定の潮流は、以前からの南北問題・南南問題の延長線上の「人・モノ・カネ・資源（安い労働力や土地&資源収奪など）」だけでなく、新しい分野（金融、知的所有権、政府調達など）においても国境を越えて各国に影響を及ぼすものだ。「経済発展を推進」させるためのこうした協定の傘の下で、人々の暮らしはどうなるのか。（編集部）

モノとカネ「だけではない」自由化は何をもたらすか

農業ジャーナリスト 大野 和興

日本ではTPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加問題が国論を二分する政治問題となっている。貿易と投資、モノとカネの自由化を進める協定はなにもTPPに限らない。自由貿易協定（FTA）をめぐる動きは世界中にあり、特に成長センターとして世界の経済の中心軸となった東アジア（東北アジア・東南アジア）と西アジアには、網の目のようなFTA網がかぶさっている。グローバル化の波が押し寄せるアジアに暮らす生活者にとって、この現実は何をもたらすのか。

■アジアを覆う自由貿易・経済連携網

アジアの自由貿易網をみる場合、日本からとか中国からという視点（米国の場合はもっぱら米国の視点で）が普通だが、ここでは軸をASEAN（東南アジア諸国連合、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）に視座を置いてみ

ていくことにする。アジア地域のFTAはASEANが真ん中であって、中国、韓国、日本の三カ国、さらにはインド、オーストラリア、ニュージーランドといった西アジアや太平洋諸国に拡大しているからだ。ASEANを軸にすでに存在する自由貿易協定や経済連携協定には別表のようなものがある。数が多いので抜け落ちていくものもあるかもしれないが、おおむねこんなものだと思う。この別表をみてもわかるよう

に、ASEANはすでに日本、中国、韓国とは別個に自由貿易協定を結んでいる。またASEAN内のそれぞれの国が個別の自由貿易協定を結び、アジアの上をFTA網が縦横に貼りつけている感だ。最近の特徴は、これらの上に、さらにアジアを大きく包み込む自由貿易協定構想が動き出しているということである。しかもその動きは単線ではなく、さまざまな利害が交錯する複数の動きが重層的になっている。次のようなものだ。

- ① 日中韓FTA（別個に日韓FTA、中韓FTAを追求する動きもある）
 - ② ASEAN+3（日・中・韓）
 - ③ ASEAN+6（日・中・韓・オーストラリア・ニュージーランド・インド）
 - ④ TPP（ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、カナダ、メキシコ、ペルー、チリ、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、ベトナム）
- このうち、「ASEAN+6」は略称RCEP（フルセック）と呼ばれている。東アジア地域包括的経済連携（Regional Comprehensive

■ASEAN および関連国における、主に2国間（2者間）の経済連携／貿易協定。

ASEAN + 各国：

- ASEAN 自由貿易地域 (ASEAN Free Trade Area)
- ASEAN・インド自由貿易協定 (AIFTA)
- ASEAN・オーストラリア・ニュージーランド自由貿易協定 (AANZFTA)
- 日本・ASEAN 包括的経済連携協定 (AJCEP)
- ASEAN・韓国自由貿易協定 (AKFTA)
- ASEAN・中国自由貿易協定 (ACFTA)

各国別：

- タイ・オーストラリア経済連携協定 (TAFTA)
- オーストラリア・合衆国自由貿易協定 (AUSFTA)
- インド・韓国包括的経済連携協定 (IKCEPA)
- インド・シンガポール包括経済協力協定 (ISCECA)
- シンガポール・オーストラリア自由貿易協定 (SAFTA)
- 韓国・シンガポール自由貿易協定 (KSFTA)
- EU・韓国自由貿易協定
- 米国・シンガポール自由貿易協定 (USSFTA)
- 中国・シンガポール自由貿易協定 (CSFTA)
- 日本・インドネシア経済連携協定 (JIEPA)
- 日本・マレーシア経済連携協定 (JMEPA)
- 日本・フィリピン経済連携協定 (JPEPA)
- 日本・シンガポール新時代経済連携協定 (JSEPA)
- 日本・タイ経済連携協定 (JTEPA)
- 日本・ベトナム経済連携協定 (JVEPA)

※順不同